

石川島記念病院

リハビリテーション部 長谷川 駿 (理学療法士)

功 績 Our Teamを体現することができた功績
推 薦 者 リハビリテーション部 科長 森川 健史
推 薦 理 由 病棟転換に際し、リハビリテーションスタッフはもとより、病棟スタッフとも協働しOur Teamを体現することができていたので推薦します。

内 容

2021年2月より当院で勤務を開始しています。当院が全床コロナ病床への転換をした際には、半年間ねりま健育会病院へ異動し、回復期の再開時には石川島に戻って来てくれたうちの一人です。

コミュニケーションスキルにすぐれ誰でも分け隔てなく接することのできる人柄は先輩後輩問わず慕われ、病棟スタッフからもきさくに声をかけられることが多いです。それでいて臨床に臨む姿勢はまっすぐで、自己研鑽においてもお子さんが生まれて大変な時期でも研修会への参加を怠らない高い職業倫理を持ち合わせていました。そんな彼を病棟リーダーに置く算段をしていた矢先、回復期リハビリテーション病棟から地域包括ケア病棟への転換が決まることとなりました。当部のミッションは病棟転換だけではなく、訪問リハと外来リハをゼロから立ち上げることになり、役職者は部署編成から書類作成、コンプライアンスの確認に奔走することとなりました。「猫の手も借りたい。」まさにそんな状況下で私を助けてくれたのは猫の手ではなく長谷川さんでした。新チームのスタッフと良くコミュニケーションを取り、不平や不満だけでなくどうしたい・どうやっていきたいなどの意見を取りまとめていました。それどころか、病棟と協働する部分の折衝についても臆することなく師長さんに臨み、「ダメ出しされました。」と返り討ちにあいながらもリハと病棟が双方無理なくできるところまで粘り強く交渉をしてくれました。結果、科長は病棟との交渉に一回も参加せず、それでも病棟転換をはたし大きなトラブルなく今に至っているのは間違いなく長谷川さんがOur Teamを作り上げてくれた功績だと思います。

組織運営や指導が難しいと言われているZ世代のど真ん中の彼が作り上げたOur Teamは昭和でも平成でもないのかも知れません。ただ間違いなく彼が作り出したのはトップダウンや一方的的ではなく、双方向性のインタラクションが生み出したOur Teamであり、My TeamではなくOur Teamなんだという理事長トークを思い出さずにはられません。健育会が掲げるOur Teamを体現する事ができた長谷川さんこそ、私は理事長賞へ推薦したいと思います。